

しかおい

議会だより

第113号

まちなか会議受付中

^{しばれ}
「凍る夜は、熱く語りたい」

□ 2012年1月25日発行 □ 発行者 北浜道尾町議会
【E-mail】 gikai@town.shikaol.lg.jp
【URL】 <http://www.town.shikaol.lg.jp/>

しかりべつ湖コタンの夜明け

補正予算

平成23年12月定例議会は、12月7日に開
会。一般会計補正予算、特別会計予算な
ど12議案を審査し、全議案原案通り可決
し（反対者なし）20日に閉会しました。

えん麦、ひまわりなどの緑肥
事業で環境保全型農業を支援

一般会計補正予算は
3億33万円を追加し、総
額を59億3百75万円とし
ました。

主要な補正予算

○環境保全型農業直接支援
対策事業
2千2百45万円

平成22年度まで農地・水・
環境保全対策の一部として
実施されていた事業を、今
年度から独立して実施しま
す。
今年度の実施事業は、小
麦の収穫後の畑にえん麦や
ひまわり等のカバークロッ
プを蒔く事業で、約5百28
畝、有機農業が約34畝で、
対象農家が70戸です。

○町営牧場クローラトラク
ター購入
1千2百60万円

町営牧場の傾斜地等作業
用のトラクターを更新しま
す。

○てん菜生産性・品質向上
対策事業
7百万円

てん菜の褐斑病軽減に向
けた農業代の助成を行い、
生産性及び品質の向上を図
ります。



収穫されたビート



美しい農村景観の形成に欠かせないひまわり等のカバークロップ、緑肥として蒔かれます。

条例改正

○鹿追町町税条例等の一部
改正

寄付金税額控除の適用下
限額の引き下げや町民税等
の納税管理人に係る不申告
に関する過料の引き上げ等
を行うものです。

同意

教育委員に高橋俊樹氏を選任

12月11日に任期満了とな
る教育委員会委員高橋俊樹
氏の選任（再任）提案があ
り、これに同意しました。

なお、高橋教育委員の任
期は、平成27年12月11日ま
での4年間です。

病院事業会計補正予算

・回診用エックス線撮影装置
購入
3百30万円

町立病院は、寝たきりの
患者も多く機器の利用頻度
も高いため更新するもので
す。



老朽化した既存の撮影装置

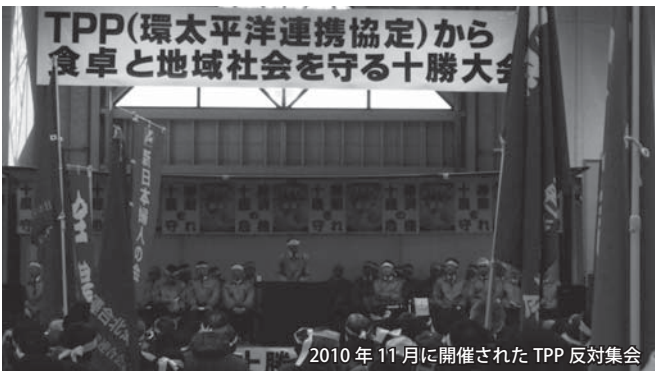
・医療事務コンピューター
購入
9百87万円

請願

TPP協定参加反対
を求める請願

提出者
鹿追町農民間体連絡協議会
会長 上嶋誠一
鹿追町農業協同組合
組合長 佐藤雅仁
紹介議員
狩野正雄・加納茂

生活の根幹を揺るがす大問
題です。
TPP交渉が地方の産業
と国民生活に及ぼす影響な
どについて、十分な国から
の情報提供とあわせ、国民
的な議論が必要です。
以上、例外なき関税撤廃
を原則とするTPP協定に
は参加しない、とする旨の
請願を町議会全会一致で採
択し、意見書を内閣総理大
臣ほか関係各大臣に提出し
ました。



2010年11月に開催されたTPP反対集会



2人の議員が 町政を問う。

Q 地域支援事業の現状と拡充策は

A 高齢者対策の充実を進めます



狩野正雄議員

施行から11年が経過しておりますが、事業の実態と今後拡充すべきメニューについて、鹿追町の高齢者の状況は。

(質問) 交通弱者対策は、バス路線図や時間を分かりやすくできないか。

(答弁) 吉田町長

現在、町が実施している交通弱者対策は、地域の足としての患者輸送バスやスクールバス、バス路線沿線住民にバスチケットを配布しています。路線図や時間は分かりやすい方法を検討して対応します。

狩野 正雄議員

地域支援事業の現状と拡充策は



飯沼 新吾議員

TPPに対応する農業政策の模索を



Q TPPに対応する農業政策の模索を

A 鹿追ブランドの確立を期待



飯沼新吾議員

(質問) TPP（環太平洋連携協定）交渉参加に対する反対運動の中、鹿追町の農業が将来にわたっても、足腰が強く、安定した経営をするための積極的な農業政策が必要と考えますが、町長の所信をお尋ねします。

(質問)

TPP（環太平洋連携協定）交渉参加に対する反対運動の中、鹿追町の農業が将来にわたっても、足腰が強く、安定した経営をするための積極的な農業政策が必要と考えますが、町長の所信をお尋ねします。

(答弁) 吉田町長

TPPの農業への影響額は、北海道で5563億円、十勝で1368億円、鹿追町では全体の生産額139億円（平成18年）のうち、72%の101億円が影響額として出ます。小麦、甜菜、澱原用馬鈴薯、牛肉、豚肉は100%、生乳は80%影

(答弁) 吉田町長
75歳以上の後期高齢者は男性318名、女性456名、計774名、率13.7%。要介護者も十勝管内では最低の13.9%で元気な高齢者が多いといえますが、地域支援事業、民間企業、地域の協力が今以上に必要となってくるものと考えます。

(質問) 買い物難民といわれる人を出さないための対策は。

(答弁) 吉田町長

自宅で商品注文できるシステムの開発などを商工会とともに調査検討したい。

(質問)

孤独死などを防ぐために地域や民間と協力した、安否確認の取り組みは。

(答弁) 吉田町長

ケアマネージャーや民生委員が訪問相談、安否確認をしています。特に独居老



病院と直結した高齢者住宅

人、高齢夫婦世帯の見守りが必要な方は、消防署と連携して対応しています。今後は電話回線やインターネットを利用した安否確認システム等や行政や地域、民間事業者とも連携して高齢者対策の充実を進めてまいります。



改築が進む町立病院



新規作物として定着したしかおい高原キャベツ

然環境にあり、関係機関と研究を進めています。これらも、環境保全センターのビニールハウスを利用して進めたい。また1年を通しての畑作農業も模索したいと考えます。

あらゆる連携を考えた、町づくりをすすめていきます。その中で6次化の加工が始まれば、雇用が生まれます。間接的には、農産物の消費拡大につながっていくと考えています。

まちなか会議受付中

「凍る夜は、熱く語りたい」

鹿追町議会は「住民参加型の開かれた議会」を目指します。

広報広聴常任委員会では、「まちなか会議」の一環として定例会終了後毎に「議会報告会」を開催しています。その他にも皆さんの要望に応じて懇談会・委員会を開催します。申し込み用紙を、町内各団体に配布しています。

商工会、農協、各種団体、行政区などに呼びかけていますが、詳細は鹿追町役場議会事務局（電話 66・4039）までお問い合わせ下さい。



自然エネルギーの活用と今後の取り組みについて

岩手県葛巻(くずまき)町

葛巻町は、周囲を山々に囲まれ交通アクセスが不便で過疎化が進んでいる町です。「北緯40度 ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」をスローガンにまちづくりを進めています。町民の理解を得ながら新エネルギーの導入と町おこしとを一体化して取り組んで、町のエネルギー自給率は、180%で日本一と言われています。「自立の町」を目指し、山村が持つ豊かさや魅力を再認識しながら「夢」に挑戦する町づくりを進め、住民が住み続けたいと思える町、誇りを持てる町をコンセプトとしてまちづくりを進めています。町民の理解のもとに新エネルギーの導入に民間企業をうまく取り入れ積極的に取り組んでおり、その状況を見るため多くの視察者が訪れ、まちの活性化につながっています。

鹿追町においてもバイオガスパラントの視察者が増えていますが、その方たちに町に少しでも滞在してもらい、お金を使ってもらう仕組み(宿泊、食事、土産品などの購入)を構築することが必要です。



食品廃棄物エネルギー化事業

宮城県仙台市

仙台市内のごみ処理がメインの民間施設(株式会社新興)ですが、副次的産物であるバイオガス、電気、堆肥の有効活用を目指す「バイオアークプロジェクト」としてリサイクル・ループ(生産・収集・処理)の完結を目指しています。食品廃棄物と下水道汚泥の処理にバイオガスパラントを使用していますが、特に臭いが外に漏れない工夫や処理が随所に見られ、脱臭、消臭の技術は、今後取り入れる必要を感じました。



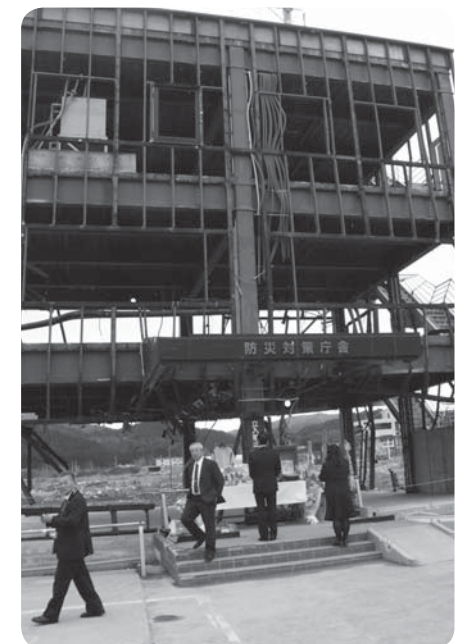
産業厚生常任委員会は平成23年10月24日から27日までの間、「バイオガス活用」・「観光振興」・「自然エネルギーの活用」等をテーマとする、継続した所管事務調査を宮城県、岩手県で実施しました。

表敬訪問

宮城県南三陸町

南三陸町では、過去にも津波の被害を受けた経過があり毎年大規模な防災訓練を行い、その備えにおいては万全を期していました。東日本大震災はまさに想定外とのことでした。

鹿追町においては、津波の被害は想定されませんが、地震、水害、暴風雪などの災害には日ごろより備え、避難場所、備蓄物資の確認は怠ることができません。



第2の基幹産業としての観光振興

岩手県紫波(むら)町

平成23年3月に紫波町では、観光振興計画を作成しました。住民と協働し計画的に観光振興を推進するためのものであり、観光振興が観光産業のみならず他産業にも経済や雇用の面においても波及効果があるので、住民参加により観光資源の発掘などを行い観光振興計画策定が望まれます。

紫波町では、現在の環境を保全し、創造し100年後の子供たちに引き継ぐという新世紀未来宣言を行っています。鹿追町でも循環型社会の構築を目指しているがシステムづくりにおいては、将来の方向を示し町民への意識づけが大事になります。



ごみ処理施設の運営と取り組み

東京都多摩清掃工場

東京都多摩ニュータウンのエリアのごみ処理工場です。鹿追町でもごみ処理が緊急の課題であり、埋め立て方式かそれ以外の方法が議論が始まっていますが、大都市での処理状況を視察してきました。

この工場は日量400tの処理能力があり、焼却熱による発電で年間1億2千500万円の売電収入と、隣接する公共施設に熱を供給しているとのことでした。また、焼却灰の一部をセメント原料として利用し、残りは最終処分場での処理であるが後7年で満杯になるとのことで、次の新設は平成30年とのことでした。いずれにせよ本町とはスケールが違いますが、やはり今後のごみ処理はこの方法を参考にすべきと皆感じた次第です。



美術館の運営管理

横浜市馬の博物館

国内初の競馬場の跡にそれらを記念した博物館です。同じ「馬」という縁で神田日勝記念美術館との交流があり今回の視察となりました。おりしも小田原北条氏の企画展が行われており、皆でじっくり鑑賞し歴史への思いをかみ締めてきたところです。



認定子ども園の取り組み

東京都石浜橋場こども園

鹿追町でも幼保一体化が以前より議論されていますが、この施設は台東区石浜幼稚園と隣接する橋場保育園とにより平成20年に開設された公設公営の幼保連携型の認定こども園です。1、2歳児が橋場保育園、3、4、5歳児が石浜幼稚園での保育となっています。それぞれ綿密なカリキュラムによって運営されていますが、やはり問題として感じるのは国の所管省庁が異なり、保育士、幼稚園教諭といった資格制度、また制度面での統一が進まなければこども園として潤沢な運営に疑問符がつくというのが感想でした。



総務文教常任委員会は平成23年11月14日～17日までの間、「国際理解教育」・「新聞教育の役割」・「ゴミ処理施設の運営」・「認定こども園」等をテーマとする、東京都内において所管事務調査を実施しました。

国際理解教育

東京都世田谷区立梅丘中学校

梅丘中学校は全国新聞教育研究協議会会長で鹿小での研究会にも参加されていた八王子市立榎原中学校校長の木野村雅子氏の紹介と同席により最初に訪れた学校でした。

この学校の特徴として世田谷区帰国子女、外国人受入校であり、英語教育を軸とした国際理解教育に重点をおいている点が上げられます。特に英語でスピーチできる生徒の育成に全教員で取り組んでいるとのことであり、習熟度別に3コースでの英語学習を行っており、さらに英語力の向上には十分な国語力の充足の上にあるとお話でした。また、日本の伝統文化の理解を深めるために、狂言、雅楽、歌舞伎鑑賞を行っているとのことであり、鹿追とは若干教育環境が違っ



ていますがカナダ学による英語教育に取り組んでいる鹿追町の教育との類似点を見出すことにより、さらなる教育環境の充実にたいへん参考になる研修でした。



新聞教育の役割

東京都北区十条小学校

十条小学校での研修は新聞教育の状況と効果についての研修でした。このことは子供が新聞を通して広く社会に対して興味を持ち、考える機会を持つことにより、その後の子供の人格形成に大きく影響を与えるものと思われます。新聞を使った授業も参観させていただき、児童がそれぞれ興味のある分野のスクラップ作りに熱中している姿が印象的でした。また、特徴として中国籍の児童が4割前後在籍し、また4割程度が単身世帯であり、新聞を取っている家庭も4割程度であるとのことでした。鹿追町の状況とは若干異なりますが同じく新聞教育を実践しており今後それぞれの交流のなかで、さらに充実した教育になることを期待するものでした。





ペーパームントの会 クリスマス会



会長の伊藤英江さん

12月18日にトリムセンターでペーパームントの会のクリスマス会が行われました。
ペーパームントの会は、ハンディキャップを持つお子さんの保護者で「子どもたちが将来も地域で暮らせるように」という思いを持つ仲間が集まり始め、平成14年ペーパームントの会が立ち上がりました。名前には「来て、話して、すっきりしましょう!」という意味がこめられています。
当日は、参加者の皆さんでカレーライスとケーキを作り、楽しく会食をしてクリスマスを祝いました。

毎月、トリムセンターとウリマックホールで交互に例会を行っています。2月は、ウリマックホールで行いますので会の趣旨に賛同いただける方は、一度是非いらしてください。
(取材・インタビュー 上嶋和志)

カナダ短期留学の大きな成果を報告 鹿追高校1年生



12月14日、鹿追高校1年生の短期留学の報告会が行われました。10月7〜19日、友好姉妹都市のストニイプレイン町で、ホームステイや地元メモリアルコンボジット高校に体験入学した時の交流の様子や、両町のエネルギーや環境への考え方の違いなどの研究を報告しました。1カ月間準備をかけたこの報告会に訪れた町民も、レベルの高さに関心していました。



1年A組
坂東洗純さん

英語の力の足りなさを感じましたが、新たな学習意欲も出てきました。友達の中には将来外国で仕事をしたいという者もいました。



1年B組
森谷恵さん

コミュニケーションには伝える意欲が大事だと感じました。カナダの高校は規則もゆるく日本の大学のようにでした。

(取材・インタビュー 武藤敦則)

編集後記

2011年を振り返ってみると大震災、それによる原発事故などまさに日本にとって歴史に残る不運の年でありました。しかし、我々日本人は敗戦からわずかな間に立ち直った経験からして決して負けること無く、これを糧にできる民族であると確信します。議会も新しい体制になり出発をしました、「まちなか会議」を積極的に推進しています。今後も住民の皆さんが誇りを持って暮らせる町づくりに、議員全員でまい進しますので皆様のお力と共に数々のご意見をお寄せください。「熱く語り合しましょう」

(議会広報部員 加納 茂)

議会広報広聴常任委員会 広報部会

- 部会長 狩野 正雄
- 副部会長 武藤 敦則
- 部会員 加納 茂
- 上嶋 和志
- 山岸 宏